ご存じですか？景観計画③

「自動販売機にも景観？」編

シリーズ「ご存じですか？景観計画」。今回は、自動販売機について考えます。

自動販売機は、いろいろなデザインや、商品のイメージカラーを用いるなど色彩も様々ですが、町では、景観計画によって、良好な景観形成への誘導を図っています。最近は、京都市や鎌倉市でも色彩を抑えたものが良く見かけられます。

屋外に自動販売機を設置する場合、その色彩は通りの景観との統一性を持たせるため、他の工作物との調和を図るように外装をアースカラーに近い2色に設定しています。派手な色彩は望ましくありません。

また、写真①のように、店の入口に自動販売機を設置し、側面の遮へいを建物のデザインにそろえると、景観と調和します。また、写真②のように、ポップやシールの掲出を控え、商品窓の中だけに色彩を使用すると、見た目もすっきりとします。

▲景観と調和した自動販売機（写真①）

▲見た目もすっきりとした自動販売機（写真②）

【自動販売機設置事業者の方へ】

既に設置している自動販売機を入れ替えなどで更新する場合は、外装が景観計画に即した自動販売機であるか、役場で協議してください。地区によっては、届出が必要な場合もあります。

【町民の皆さんへ】

自宅や商店の軒先等に場所を提供して、自動販売機を設置している場合も、設置業者に、町と協議して景観計画に即した自動販売機を設置するように促してください。大磯らしい景観形成のため、皆さんのご協力をお願いします。

◎問い合わせ
都市計画課　☎内線221

シリーズ連載⑦　大磯景観応援団

「大磯そぞろ歩き」

今回は、大磯町と平塚市の境にある高麗山を望む景観を取り上げます。多くの人が「大磯らしさ」を感じる景観ではないでしょうか。

【高麗山と金目川（花水川）】

高麗山は、横浜方面から大磯町に来ると、「ああ、大磯に来たな！」と感じさせる、標高168mの山です。

高麗山の広葉樹の自然林は、「21世紀に残したい日本の自然100選」にも選ばれ、歌川広重の浮世絵「平塚の宿」にも描かれています。

山の形はどこから見ても同じかもしれませんが、私は湘南遊歩道路と呼ばれた現在の国道134号の花水川橋からの眺めが一番好きです。それは、満潮時に金目川が川面を精一杯広げた時に周辺の光景と自然が織り成す情景です。

高麗山の由来は、江戸時代まで山中に存在した高麗寺から高麗寺山と言われるようになり、現在では高麗山となったようです。高麗寺は、7世紀に滅亡した高句麗からの渡来人の一部の人々がこの辺りの地に定住して、寺院を建立し、江戸時代に上野寛永寺の末寺として東照宮を置いたといわれています。

金目川右岸には、サイクリングコースが整備され、年間を通してサイクリングが楽しめます。

もちろん、そぞろ歩きにもお勧めの場所です。

（景観応援団・梶）

※この記事の感想や写真・投稿をお寄せください。

▲花水川橋から臨む高麗山と金目川（花水川）

◎問い合わせ
都市計画課
☎内線243